

光葉同窓会メールマガジン

＜2024年11月号＞



209号 2024.11.01 配信

今年は秋の訪れが遅く、関東では10月の夏日が昨年を上回りました。11月に入り、ようやく本格的な秋を迎えようとしています。

11月のメインイベントは、学生主催の秋桜祭への参加です。今年は、2020年から昨年までコロナ禍で控えていたバザーを5年振りに開催します。支部から寄付していただいた提供品の販売や支部の出店、昨年に引き続き卒業生有志によるグループ販売、子どもコーナーを行います。

また、秋桜祭初日には大学との共催によるホームカミングデーが復活し、開催されます。多くの方が、この機会に大学を訪れていただくことを願っています。（常任委員 金谷美智子）

◇坂東真理子総長・光葉同窓会特別顧問 2024年度北日本新聞文化賞を受賞

坂東真理子総長・光葉同窓会特別顧問がこのほど、2024年度北日本新聞文化賞を受賞されました。同賞は郷土への熱い思いで地域の発展を支える人々の功績をたたえるとともに、広く県民に伝えて活躍する富山県ゆかりの人を表彰。受賞記念のインタビューが、10月19日付北日本新聞に掲載され、11月1日に富山県で開催される授賞式に登壇されます。

◇2024年度 第32回秋桜祭のご案内 今年のテーマ「Spread your wings」

開催日時：11月9日(土)・10日(日) 10時～16時

場 所：大学3号館1階 1S02・1S03 教室 同窓会は15時30分まで

「第2緞帳物語」の展示、38支部からの提供品の販売、4支部の出店、同窓生有志の6グループによる販売、子どもコーナーが参加します。

第二緞帳の原画



ホームカミングデーに参加の方もぜひお立ち寄りください。
ご来場をお待ちしています！

同窓会支部によるバザー
復活!! 卒業生による出店販売
子どもコーナー 大人気★

《展示》
人見記念講堂
第二緞帳物語

お気軽にお立ち寄りください

光葉同窓会

第32回 秋桜祭 2024年11月9日(土)・10日(日)

光葉同窓会

- ◆同窓会支部によるバザー
- ◆卒業生による出店販売
- ◆大人気子どもコーナー
- ◆人見記念講堂第二緞帳物語の展示

是非お越しください

大学3号館 1階
1S02/1S03

◇講演会のご案内 「国際情勢と日本（欧州を中心として）」 無料

講師 山崎日出男 昭和女子大学理事長

開催日時 2025年1月11日(土)13時受付 13時30分から14時30分

※募集の詳細は、ホームページまたは12月配信のメールマガジンでお知らせします。

◇支部会開催予定

11/17(日)茨城県支部・青森県支部 11/18(月)福岡県支部 11/23(土)愛媛県支部
11/30(土)神奈川県支部 11/30(土)東京都多摩 24 支部 12/8(土)徳島県支部

広げよう光の葉

藤岡 希世子さん

1998 年卒 英米文学科

「パリのリュミエール 光を求めて」

2024 年 9 月 7 日は初めて娘がパリに降り立った記念日。私が青春を過ごした大切な町。遡ること 7 月 27 日、私は日本にてパリオリンピックの開会式を夜中に一人で見続けた。パリへ行く機会をうかがって数年。4 歳の娘とそろそろ行けそうかなと、足早に決めた今回の旅。しかも二人きりでの海外は初めて。去年の光葉同窓会新体制創立 50 周年記念のボストン・ニューヨークの旅で大活躍した子どもが乗れる愛用のキャリーケースは今回も必須。

パリ初日は郊外の友人宅にて過ごし、5 歳のお友だちと初めまして、娘は着いた早々好物のハムを山盛り食べ、時差ぼけもなくぐっすりおねんね。翌日はみんなでサンリスの街並みとシャンティ城を見学。シャボン玉を飛ばしながら古い街をそぞろ歩く。教会での美術展示や、ミサ、洗礼式、お城では花嫁花婿さんの姿にも遭遇。日常と非日常の世界に胸が弾んだ。3 日目は二人でパリへ移動した。



私はスリ対策のため首から提げた貴重品とスマホの紐を更にスカーフに巻き付けて、ポシェットも開口部に安全ピンを刺して万全を期した。娘と貴重品を守り抜くのが最優先。無事安全に帰国することはこの旅の使命で、それがまた次への旅の自信につながるから。現地在住の大学以来の学友と合流して、ホテル程近くのマドレーヌ広場のカフェで昼食。思い出話に盛り上がる私たちの傍ら、娘はまたしても山盛りのハムとポテト、ギャルソンの粋なおもてなしを楽しんだ。その後はコンコルド広場を迂回して、3 人でオランジュリー美術館へ。近くて歩いて行ける美術館は、この旅の数少ない目的地の一つにしていた。4 日目は大好物のマカロンを求めて「ラデュレ」でランチ。2 階の WC の総ピンクの壁が壮観で、記念撮影。その後は地下鉄に乗ってコメルス駅前の公園へ。現地の子どもたちに混じって砂遊び、遊具、メリーゴーランドと遊び尽くした。

この旅は 20 余年来の友人たちと再会しお互いが元気でいて、私の拙いフランス語がまだ通じること、まだ夢や野心があること、語り合い時間を共有できる友だちがいることを体の芯から感じられる幸せな時間だった。連日通ったカフェマドレーヌ、人々の喧噪もガラス張りの店内から臨む秋口のパリの変わりやすい天気はあの頃のまま、今は隣に最愛の娘がいて覚えてたのフランス語を披露してくれる。時折 20 余年前の遊学生時代の自分がフラッシュバックする。パリのリュミエール（光）を求めてあの頃も今も私はまた娘とパリへ行く。

「世の光となろう」母校が授けてくれた言葉。自分も友だちも家族もみんなそうなるために生まれてきたし、そう思って生きていると信じている。【End】